【ポスター発表】

地域にある福祉団体との連携に基づくガーデニング活動実践研究

－放課後等デイサービスとの協働に基づくしょうがい児の余暇支援－

○　南九州大学　　林　典生（会員番号 005404）

キーワード：放課後等デイサービス、余暇支援、ガーデニング活動

１．研 究 目 的

発表者は過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに園芸・造園活動を通じて課題を解決する活動を実施している。これらの活動実践において大学生が地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することにつながり、地域及び大学双方にメリットがあることを報告した（林.2013)。また、上記の活動を実践する中で、しょうがい当事者が余暇の選択を自分の意志に基づき、望む活動を行うのが難しく場面に遭遇した。特にしょうがいのある子どもの場合、個人で行動することが困難であり、様々な場面で特別な支援を必要とすることが多いため、以前と比べて余暇の楽しめる環境であるものの､地域等により機会確保が難しい現状が明らかとなった。この現状を改善するために発表者は大学生が学んだことを生かした活動に基づく交流を行う事で、当事者の行動範囲を広げ、家庭や学校、利用機関以外での新たな人間関係を作ることにつながり、本人にとって貴重な経験が得られるものと考え、2019 年よりしょうがい児支援も含む複数の地域にある子育て支援団体との共同研究で、大学生の福祉教育を目的に、複数の子育て支援団体との協働に基づいて、園芸作業を中心とした地域住民との交流プログラムの企画実施を実践した。実施後に参加児童が利用されている放課後等デイサービス職員より今後機会があれば参加したいとの要望をいただき、実施に向けて準備を進めたが、新型コロナ禍の中で 2021・2022 年度はこの形式で実施することが難しく、オンライン単独・併用形式にて実施した（林,2021・2023)。

２．研究の視点および方法

本研究では放課後等デイサービス利用者が参加しやすい 2023 年 8 月後半に園芸作業を中心とした対面形式の交流プログラムを実施した。具体的な流れとして発表者より事前に放課後等デイサービス 4 カ所を対象に活動実施の案内を行い、日程調整も含めガーデニングワークショップ(以下､ワークショップと略す｡)の流れに関して打ち合わせを実施した。また、園芸・造園系学部所属の大学生 10 名に事前説明を実施した。発表者は活動現場にて利用者や職員の要望や意見をヒヤリングやアンケート調査を実施して拾い上げていくと共に、振り返りながら改善することを試みた。また、当事者や職員等の意見交換しながら活動風景の写真や記録等の資料を整理するとともに、関係者の意見等をお伺いした。

３．倫理的配慮

この研究は南九州大学倫理委員会に研究計画等について審査を実施して、了承が得られ

たものである。具体的には個人情報保護の視点から、学生、参加者および現場関係者などの関係者に説明を行い、了承が得られた場合のみ活動全体の写真撮影、活動に関する記録整理および関係者の皆様にアンケートやヒヤリングを実施した。また、本報告に関連して開示すべきCOI関係にある団体や企業等はない。

４．研 究 結 果

まず、大学生に対して放課後等デイサービスと利用されるしょうがい児に関する説明と使用会場にて車いす等を用いたしょうがい疑似体験をしながら、ワークショップを実施・意見交換を実施した。その結果を踏まえ、レイアウトを検討するとともに、受講生にワークショップの企画・準備ならびに実施に基づいてさらに意見交換・改善を実施した。また、学生が考案したワークショップに関する写真を各放課後等デイサービス職員に送付の上、事前に利用者に見ていただく様お願いした。各々1 時間程度のワークショップに 11～23名が参加され、利用者本人が活動内容を複数選択して実施した。

５．考 察

意義として、利用者・職員並びに大学生に交流が進み、貴重な場になっていることが明らかとなった。①職員だけではこのようなプログラムを行うのが難しい現状の中で企画・実施に参加できて良かったおよび参加者本人・職員ならびに大学生と交流するのが楽しかったとの声があり、交流プログラムとして肯定的である。②職員より利用者本人が他に利用している学童保育にて作品を見せることで通常会話しない他の児童との会話が見られたとの報告が見られた。また、大学生より3年前の入学時にコロナ禍で話することが出来ておらず、初めて話をする学生がおられたがいろいろと打ち解けることが出来た。もしこの様な場が1年生の時にあれば、皆ともっと早く打ち解けることが出来たのではないかと声があり、利用者本人だけではなく大学生同士でも新たな人間関係を構築できていることが明らかとなった。但し、実施する中で以下のことが課題として、日頃からの報告・連絡・相談の重要性が明らかになった。①移動手段の面では、雨天時の車いす・バギー利用者の車の上げ下ろしに課題があり、今後、誘導方法も含めて改善する必要がある。②材料・設備等確保の面では、学生が自主的に材料調達を行ったが、当日になって参加したい利用者がおられる中、確保が難しい状況であり、代替プログラムを実施する必要があり、日頃より代替プログラムも含めて準備を行う必要があることが明らかになった。

参考文献

林典生(2013)「地域社会と連携したガーデニング活動による大学生生活支援」『農業及び園芸(養賢堂)』88(1). 105-116.

林典生(2021)「オンラインを活用した大学生向け福祉教育実践報告」『日本福祉教育・ボランティア学習学会第27 回埼玉大会要旨 令和3年秋』(埼玉県立大学),124-125.

林典生(2023)「福祉教育を目的としたガーデニング活動実践研究」『第81回日本農業教育学会大会日本農業教育学会誌34(別)』(千葉大学),47 - 48.